

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | |
|-------|---------------------------|-----|-------------|--------|----------------|
| 教科名 | 国語科 | 科目名 | 国語表現（小論文演習） | 対象学年・組 | 第3学年 必修選択科目履修者 |
| | | | | 担当者 | 高橋、箕輪、山田 |
| 使用教科書 | 『国語表現 改訂版』（大修館書店） | | | 履修単位数 | 2単位 |
| 副教材等 | 『国語表現 改訂版 基礎練習ノート』（大修館書店） | | | | |

| | |
|---|---|
| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
| ①小論文及び面接、集団討議における重要事項を理解し、適切に表現する能力を高める。 ②文章力およびスピーチ力を高める。 ③言語活動に積極的に取り組むことによって、言語活動の向上を図る態度や自主的に学び続ける姿勢を育てる。 | 【観点】 ①関心・意欲・態度…積極的に言語文化や言語感覚についての学習に取り組み、能力を高め、可能性を広げようとしているか。 ②書く能力/話す能力…言語活動の特質を理解し、自己の能力として定着させているか。 ③知識・技能…言語活動を通し、漢字や語句、文意の明確化や文章の構成といった事項に関わる知識や技能を高めているか。 【方法】 提出課題（小論文、作文、スピーチ原稿等）や副教材およびノートの内容、授業態度 |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 | |
|---------|----|---|--|--|
| 1 学期 | 20 | ・書いて伝える ・自己PRと面接 ・小論文およびレポート入門 ・小論文および面接・集団討議の過去問題 | ・仮名、漢字、係り受け、文末表現、敬語、話し言葉と書き言葉、一文の長さ、読点、文意が明確な文、接続表現 ・自己の長所と短所、人生、志望動機、面接、履歴書 ・小論文とレポートの基礎 ・大学入学試験、公的機関採用選考の過去問題 | 文字や語句について調べ、文や文章の明確な表現の方法について知る。自らの志望動機や自己PRについて、言語で表現する。他者の思考や感性について読み取り/聴き取り理解する。思考を論理的に行い、正確かつ明確な表現で思考したことを小論文やスピーチにする。こういった取り組みを通して思考を深め、職業人や社会人、家庭人としての土台となる知性を鍛える。 *この科目における学習活動と高められる力は、文科系の大学進学者だけでなく、理数系や体育系、芸術系の大学進学者や就職者、専門学校や職業訓練校の進学者にとっても、いかなる生き方を選ぶにせよ、重要な取り組みと能力である。間違っても無駄だと思わず、懸命に取り組む続けてほしい。 |
| 2 学期 | 46 | ・小論文および面接・集団討議の過去問題 | ・大学入学試験、公的機関採用選考の過去問題 | |
| 3 学期 | 4 | ・小論文および面接・集団討議の過去問題 | ・大学入学試験、公的機関採用選考の過去問題 | |
| 計 | 70 | | | |

| | |
|--|--|
| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
| ①電子機器やSNS、人間関係に依存せず、他者に責任転嫁せず、責任意識をもって睡眠や栄養と向上心を確保しておく。 ②予習時には授業で扱う詩文をあらかじめ読み、難解な語句は国語辞典等の辞典で調べておく。 ③授業時間前に筆記用具や教科書、ノートなど必要な物を早めに用意し、早めに着席して気合を入れておく。 ④詩文の読解においては常に「なぜこの表現や語句が（他の表現や語句ではなく）使用されているのか」「筆者/作者はどのような時代や地域に、どのような形で活躍したか」「同時代の読者が受けたであろう印象はいかなるものか」といった多角的・メタな視点からの疑問点を自主的に発見し、思考を深める。 *必要に応じて神話や歴史、心理、政治、経済、軍事、地理、環境、自然科学等の一般常識・教養も身に付けていく。 ⑤授業時間内に扱われた詩文をもう一度読み直す。この際、新しい発見ができることが理想である。 ⑥即座に解消しがたい疑問点が出てきた場合は、自ら調べたり、確かな経験や学識のある方に尋ねたりできるようにノート等にメモしておく。すぐに答えが出ないからといって焦らずに、しかしあらゆる機会をもって知性を鍛える意志をもって調べ、尋ねる。 *学術や技能が細分化されたこんにちでは、いわゆる名門大学出身の高度専門職の方であっても、真にあらゆる分野に通じていることは稀有である。人に教えるをうときは、尋ねる内容と分野について自力でよく理解したうえで「どなたに、いつ、どのような形でお尋ねすべきか」まで決定しなければならない。 ⑦副教材や志望校・志望職種との過去問題に取り組む続ける。不確かな風説を鵜呑みにせず、あくまでも自己の知性をもって。 | 【書籍】 ・国語辞典、漢和辞典、百科事典、文学辞典、英和辞典等の辞典や重典 ・出版社や予備校による高等学校学習、大学入試対応のテキスト ・大学入学試験、公務員採用選考、日本漢字能力検定等の過去問題 【映像】 ・NHKや放送大学等による中学生・高校生向けの映像や放送 *ただし、嘘八百のインチキ動画のみならず、高級な装丁の書籍の中にも、さらには権威あるマス・メディアの報道の中にも、嘘や間違いだらけのもの、百害あって一利無き悪質なプロパガンダは多数存在する。『孟子』にあるように、「悉く書を信ずれば則ち書無きに如かず」の精神で、複数の情報源からメディア・リテラシーをもって学ばなければならない。抽象的な表現だが、学習においては自分自身の頭と心で調べ、考え、体得することが必須である。 |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | |
|-------|---|-----|------|--------|-----------|
| 教科名 | 国語科 | 科目名 | 現代文B | 対象学年・組 | 第3学年1組～5組 |
| | | | | 担当者 | 箕輪 |
| 使用教科書 | 精選現代文B改訂版(三省堂) | | | 履修単位数 | 3単位 |
| 副教材等 | 『ニューエイジ現代文 必修 2』(桐原書店) 『これで合格入試によく出る漢字2001 新版』(京都書房) | | | | |

| | |
|---|--|
| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
| <p>①近代以降の論理的な文章および文学的な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める。</p> <p>②ものの見方や感じ方、考え方を深める。</p> <p>③言語活動に積極的に取り組むことによって、言語活動の向上を図る態度や自主的に学び続ける姿勢を育てる。</p> | <p>【観点】</p> <p>①関心・意欲・態度…積極的に言語文化や言語感覚についての学習に取り組み、能力を高め、可能性を広げようとしているか。</p> <p>②読む能力…詩文の特質を理解し、読解力を定着させているか。</p> <p>③知識・技能…言語活動に必須の文字や語句、文学史的背景といった知識や技能を定着させているか。</p> <p>【方法】</p> <p>年間5回の定期考査、提出課題(レポート、小作文等)やノートの内容、授業態度</p> |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|---------|----|--|--|
| 1 学期 | 31 | <p>○評論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいはわかりにくい? ・「ブーボー」と「マンマ」の記号論 ・身体<の>疎外 ・判断停止の快感 ・病と科学 <p>○小説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴の話 ・靴、赤い繭 <p>○詩歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹下の二人 ・死んだ男 ・小諸なる古城のほとり ・木に花咲き——短歌十五首 ・渡り鳥——俳句十五首 <p>○大学入学試験の過去問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良問各種 | <p>文字や語句について調べ、詩文の内容を把握し精読し、詩文の背景について知る。詩文の読解や鑑賞を通じた自己の発見や思考について、言語で表現する。他者の思考や感性について読み取り/聞き取り理解する。こういった取り組みを通して思考を深め、職業人や社会人、家庭人としての土台となる知性を鍛える。</p> <p><u>*この科目における学習活動と高められる力は、文科系の大学進学者だけでなく、理数系や体育系、芸術系の大学進学者や就職者、専門学校や職業訓練校の進学者にとっても、いかなる生き方を選ぶにせよ、重要な取り組みと能力である。間違っても無駄だと思わず、懸命に取り組む続けてほしい。</u></p> |
| 2 学期 | 38 | <p>○評論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私」消え、止まらぬ連鎖 ・南の貧困/北の貧困 ・虚ろなまなざし ・忘れられる権利 ・日本文化の雑種性 ・無常ということ <p>○小説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞姫 <p>○大学入学試験の過去問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良問各種 | |
| 3 学期 | 6 | <p>○批評のまなざし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット上の発言の劣化について ・カタカナ語は享受すべきか <p>○大学入学試験の過去問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良問各種 | |
| 計 | 75 | | |

| | |
|--|---|
| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
| <p>①電子機器やSNS、人間関係に依存せず、他者に責任転嫁せず、責任意識をもって睡眠や栄養と向上心を確保しておく。</p> <p>②予習時には授業で扱う詩文をあらかじめ読み、難解な語句は国語辞典等の辞典で調べておく。</p> <p>③授業時間前に筆記用具や教科書、ノートなど必要な物を早めに用意し、早めに着席して気合を入れておく。</p> <p>④詩文の読解においては常に「なぜこの表現や語句が(他の表現や語句ではなく)使用されているのか」「筆者/作者はどのような時代や地域に、どのような形で活躍したか」「同時代の読者が受けたであろう印象はいかなるものか」といった多角的・メタな視点からの疑問点を自主的に発見し、思考を深める。</p> <p>*必要に応じて神話や歴史、心理、政治、経済、軍事、地理、環境、自然科学等の一般常識・教養も身に付けていく。</p> <p>⑤授業時間内に扱われた詩文をもう一度読み直す。この際、新しい発見ができることが理想である。</p> <p>⑥即座に解消したい疑問点が出てきた場合は、自ら調べたり、確かな経験や学識のある方に尋ねたりできるようにノート等にメモしておく。すぐに答えが出ないからといっても焦らずに、しかしあらゆる機会をもって知性を鍛える意志をもって調べ、尋ねる。</p> <p>*学術や技能が細分化されたこんにちでは、いわゆる名門大学出身の高度専門職の方であっても、真にあらゆる分野に通じていることは稀有である。人に教えるを乞うときは、尋ねる内容と分野について自力でよく理解したうえで「どなたに、いつ、どのような形でお尋ねすべきか」まで決定しなければならない。</p> <p>⑦副教材や志望校・志望職種との過去問題に取り組む続ける。不確かな風説を鵠呑みにせず、あくまでも自己の知性をもって。</p> | <p>【書籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典、漢和辞典、百科事典、文学辞典、英和辞典等の辞典や事典 ・出版社や予備校による高等学校学習、大学入試対応のテキスト ・大学入学試験、公務員採用選考、日本漢字能力検定等の過去問題 <p>【映像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHKや放送大学等による中学生・高校生向けの映像や放送 <p>*ただし、嘘八百のインチキ動画のみならず、高級な装丁の書籍の中にさえも、さらには権威あるマス・メディアの報道の中にさえも、嘘や間違いだらけのもの、百害あって一利無き悪質なプロパガンダは多数存在する。『孟子』にあるように、「悉く書を信ずれば則ち書無きに如かず」の精神で、複数の情報源からメディア・リテラシーをもって学ばなければならない。抽象的な表現だが、学習においては自分自身の頭と心で調べ、考え、体得することが必須である。</p> |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | |
|-------|-----------------|-----|----|--------|-------------------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育 | 対象学年・組 | 第3学年 1組～5組 |
| | | | | 担当者 | 1組～5組：馬場・伊藤・菅井・佐藤・加藤・小林 |
| 使用教科書 | 最新高等保健体育（大修館書店） | | | 履修単位数 | 2単位 |
| 副教材等 | Active Sports | | | | |

| | |
|---|--|
| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
| ①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う | 【観点】 ① 関心・意欲・態度…仲間と協力し、苦手な種目にも積極的に取り組んでいるか。 ② 思考・判断…技能の段階に応じて、課題解決のための目標を設定し、練習を工夫しているか。 ③ 技能・表現…個人技能を高め、相手との攻防にあった作戦でゲームができるか。 ④ 知識・理解…体力を高める運動の意義と高め方及び競技のルール等を知っているか。 【方法】 授業への参加の仕方や関心・意欲・態度、出席、種目スキル等を総合的に勘案して評価する。 |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|-------------------|------------------|--|--|
| 1 学 期 22 | 体づくり運動 | ラジオ体操 体ほぐしの運動 | ・ラジオ体操を正しく行う。 ・基本的な運動を習得する。 |
| | 体力テスト | 体力テスト | ・各種目のルールを守り全力で取り組み記録の向上を目指す。 ・自己の体力の現状を知り課題を発見する。 |
| 2 学 期 25 | 男女共修・少人数4展開（前期） | 月曜日 A) バドミントン B) バスケットボール C) サッカー D) アルティメット 金曜日 A) ソフトボール B) テニス C) バスケットボール D) バレーボール | ※4グループに分かれ、グループごとの前期種目に取り組む。 ・各種目のルールを理解する。 ・各種目のルールを守り自発的に取り組む。 ・全力で取り組み技術の向上を目指す。 ・自己の運動能力を把握し、課題を発見する。 ・各種目のルールを理解し遵守する。 |
| | 体育理論 | 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 | ・健康に生活するため、運動を行うための体力の向上を図る運動計画と実践 |
| 3 学 期 3 | 男女共修・少人数4展開（前期） | 1学期前期種目の継続 | ・各種目の特性とルールを理解し、試合（ゲーム）のなかで個人やチームの能力を発揮する。 ・男女の違いを考慮した活動、試合（ゲーム）の工夫を図るとともにお互いを尊重しながら、安全に楽しく取り組む。 |
| | 男女共修・少人数4展開（後期） | 月曜日 A) サッカー B) アルティメット C) バドミントン D) バスケットボール 金曜日 A) バスケットボール B) バレーボール C) ソフトボール D) テニス | ※4グループに分かれ、グループごとの後期種目に取り組む。 ・各種目のルールを理解する。 ・各種目のルールを守り自発的に取り組む。 ・全力で取り組み技術の向上を目指す。 ・自己の運動能力を把握し、課題を発見させる。 ・各種目のルールを理解し遵守する。 ・各種目の特性とルールを理解し、試合（ゲーム）のなかで個人やチームの能力を発揮する。 ・男女の違いを考慮した活動、試合（ゲーム）の工夫を図るとともにお互いを尊重しながら、安全に楽しく取り組む。 |
| 計 | 50 | 豊富なスポーツライフの設計 | ・生涯スポーツの見方・考え方について理解する。 |
| 3 学 期 3 | 男女共修・少人数4展開(まとめ) | 1, 2学期の各種目から選択 | ・生涯スポーツの観点を意識したまとめの活動に取り組む。 |

| | |
|---|-----------------|
| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
| 【授業中】 ①時間や約束を守る ②集団の中で規律を守って行動できるようになる ③コミュニケーションをとりお互いを認め合う ④種目の特性を理解して楽しむ ⑤課題を持って取り組み体を鍛える 【放課後・家庭】 ①自己健康管理をする ②忘れ物をしない | ・Active Sports |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | |
|-------|-------------------------------|-----|-------|--------|---------------------------------|
| 教科名 | 地理歴史科 | 科目名 | 世界史 B | 対象学年・組 | 第3学年1組～5組 |
| | | | | 担当者 | 3-1,3-4,3-5:太田 規之 3-2,3-3:岡本 真実 |
| 使用教科書 | 『詳説 世界史 B』/山川出版社〔山川世 B 3 1 0〕 | | | 履修単位数 | 3単位 |
| 副教材等 | なし | | | | |

| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
|--|--|
| ①近現代ヨーロッパ史を中心とする世界の歴史を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 ②年表・地図、その他資料から世界の歴史に関わる情報を読み取ることを通して、歴史的思考力・判断力・表現力を身につける。 ③自国の歴史に対する愛情とともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。 ④将来、ニュースや新聞等を通して、世界の出来事について関心を持つ。 | 【観点】 ① 関心・意欲・態度…板書、発問に対する発言、話を聞く姿勢など積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度・提出物・考査) ② 思考・判断…歴史的事象の因果関係や発問に対して、きちんと考えているか。(授業態度・考査) ③ 技能・表現…諸資料を読み取り、発言(解答)しようとしているか。(授業態度・考査) ④ 知識・理解…授業内容を知識として理解しているか。(考査) 【方法】 100%・・・定期考査5回の得点 減点対象・・・授業態度・授業プリントの提出状況・赤点課題の提出状況 |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|---------------|--|--|---|
| 1 学期 30 | 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 | 2 ルネサンス 3 宗教改革 1 ヨーロッパ世界の拡大 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会 | ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。 ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。 17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。 |
| 2 学期 34 | 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展 | 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19世紀欧米の文化 | イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。 アメリカ独立革命の経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。 フランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。 ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。 ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。 19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。 |
| 3 学期 6 | 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 | 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 | 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競争と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 |
| 計 | 70 | | |

| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
|--|---|
| 【授業中】 ①黒板のスライドを見ながら授業をよく聞く。 ②板書内容を授業プリントに写す。必要であれば板書以外のメモも取る。 ③発問に対して、答えを探したり、しっかり考えたりし、発言する。 ④不必要な私語はしない。 【放課後・家庭】 ①授業を聞いて不明点があれば、その日のうちに担当教員に質問し、解決する。 ②考査前に授業プリントを持ち帰り、授業プリントを用いて授業の内容やスライドを思い出しながら学習する。重要用語を書いて覚えたり、その内容を説明できるようにする。 ③興味があれば、右の書籍や新聞の国際欄、テレビニュース等に触れる。 | 【書籍】 遅塚忠躬『フランス革命 歴史における劇薬』(1997年、岩波ジュニア新書) 坂井榮八郎『ドイツ史10講』(2003年、岩波新書) 君塚直隆『物語 イギリスの歴史(上・下)』(2015年、中公新書) 小笠原弘幸『オスマン帝国 繁栄と衰亡の600年史』(2018年 中公新書) 【DVD】 『エリザベス』(1998年)・・・英女王エリザベス1世 『エリザベス ゴールデンエイジ』(2007年)・・・英女王エリザベス1世 『マリー＝アントワネット』(2007年)・・・王妃マリー＝アントワネットの生涯と伝革命 『風と共に去りぬ』(1939年)・・・アメリカ南北戦争 |

大山高等学校 令和5年度 教科 地理歴史 科目 日本史B 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：日本史B 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：（1組：松崎）（2組：古川）（3組：古川）（4組：松崎）（5組：松崎）

使用教科書：（改訂版『詳説 日本史B』（山川出版社））

使用教材：（『最新 日本史図表 五訂版』（第一学習社））

| | 指導内容 | 科目日本史Bの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|--------------|--|------------------|----------|
| 4 月 | 開国と幕末の動乱 | 開国の背景と課程、その後の影響について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 3 |
| | 明治維新と富国強兵 | 維新の過程と内容について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| 5 月 | 立憲国家の成立と日清戦争 | ・民権運動の過程と意義及び明治政府の対応について考察する。 ・日清戦争の背景と影響を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| | 日露戦争と国際関係 | 日露戦争の背景と影響を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 3 |
| 6 月 | 近代産業の発展 | 明治期の経済について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 3 |
| | 近代文化の発達 | 明治期の文化について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 2 |

| | | | | |
|-----|--------------|--|------------------|---|
| 7月 | 1学期のまとめ | | | 2 |
| | | | | |
| 8月 | | | | |
| 9月 | 第一次世界大戦と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・大正政変の過程と意義を考察する。 ・第一次世界大戦の過程と影響を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| | ワシントン体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン体制の意義について考察する。 ・普選運動の過程と意義について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 5 |
| 10月 | 市民生活の変容と大衆文化 | 大正期の文化について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 3 |
| | 恐慌の時代 | ・大正期の経済と外交について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |

| | | | | |
|-----|----------|--|-------------------|---|
| 11月 | 軍部の台頭 | ・満州事件の背景と影響について考察する。 5・15事件と2・26事件の背景と影響について考察する。 | ・指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| | 第二次世界大戦 | ・日中戦争の背景と影響について考察する。 太平洋戦争の経緯と影響について考察する。 | ・指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |
| 12月 | 占領と改革 | ・米国の占領政策について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 5 |
| | 冷戦の開始と講和 | ・占領政策の転換について考察する。 講和条約の締結について考察する。 | ・指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| 2月 | | | | |
| 3月 | | | | |

大山高等学校令和5年度 教科地理歴史 科目地理B 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：地理B 単位数：2単位

対象学年組：第3学年地理選択者

教科担当者：(横田)

使用教科書：新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)

使用教材：図説地理資料 世界の諸地域NOW2023(帝国書院)

| | 指導内容 | 科目地理Bの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|---|--|--|----------|
| 4月 | <p>地理A復習</p> <p>地図の活用</p> <p>資源と産業(農業・資源・工業・貿易)</p> | <p>主題図や地形図を活用する</p> <p>世界の農林水産業について自然・社会条件と関連付けて分布や課題を考察する</p> <p>世界の工業について発達過程や種類・立地とその変化, 課題について考察する</p> | <p>地球や地図に関して成り立ちやそのメカニズムに関心を持ち考察する</p> <p>地球や地図に関する様々な知識を身につけている</p> <p>資源と産業について関心を持ち, その課題について意欲的に考えようとしている</p> <p>資源と産業について, 統計や資料などを活用し, 理解することができる</p> | 6 |
| 5月 | <p>生活文化(衣食住)</p> <p>民族と宗教</p> | <p>衣食住の地域的差異について考察する</p> <p>民族と宗教の分布や特徴・生活とのかかわりについて考察する</p> | <p>生活文化・民族についてその分布や際について関心を持ち, その課題について意欲的に考えようとしている</p> <p>生活文化・民族について, その分布や差異について考察し, 適切に表現することができる</p> <p>生活文化・民族についてグラフや表などから読み取りまとめることができる</p> | 8 |
| 6月 | <p>現代世界の地誌的考察</p> | <p>国・地域ごとの自然環境・歴史・文化などの特色を考察する</p> | <p>地域の考察について意欲を持ち, 自らテーマを考えまとめようとしている</p> <p>地域に関して考察したことを, わかりやすく適切に表現することができる</p> <p>地域に関する考察において, 適切な資料を用いて調べ, 必要な情報を選択することができる</p> <p>地域の基本的情報や特色について理解し, その知識を身につけている</p> | 8 |

| | 指導内容 | 科目地理Bの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|---|--|---|----------|
| 7月 | これまでのまとめ・今後の予定 | | | 2 |
| 8月 | | | | |
| 9月 | <p>人々の生活と地形</p> <p>(山地・平野の地形, 海岸の地形)</p> <p>(その他の地形)</p> <p>自然環境と防災 (地震・火山・風水害)</p> | <p>地形の成り立ちを理解し, そこでの人々の生活を考察する</p> <p>地形や気候の特徴など自然環境と災害について考察する 災害による被害を予測し, 防災について考える</p> | <p>地形やそこで暮らす人々の生活・課題について関心をもち意欲的に考えようとしている</p> <p>地形やそこで暮らす人々の生活・課題について考察し, 適切に表現することができる</p> <p>地形やそこで暮らす人々の生活・課題を資料から読み取りまとめることができる</p> <p>地形やそこで暮らす人々の生活・課題について理解し, その知識を身につけている</p> | 8 |

| | 指導内容 | 科目地理Bの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|--------------------|--|---|----------|
| 10 月 | 現代世界の地誌的考察 | 国・地域ごとの自然環境・歴史・文化などの特色を考察する | <p>地域の考察について意欲をもち、自らテーマを考えまとめようとしている</p> <p>地域に関して考察したことを、わかりやすく適切に表現することができる</p> <p>地域に関する考察において、適切な資料を用いて調べ、必要な情報を選択することができる</p> <p>地域の基本的情報や特色について理解し、その知識を身につけている</p> | 8 |
| 11 月 | 資源と産業（農業・資源・工業・貿易） | <p>世界の農林水産業について自然・社会条件と関連付けて分布や課題を考察する</p> <p>世界のエネルギー・鉱山資源についてその種類や分布、現状について考察する</p> <p>世界の工業について発達過程や種類・立地とその変化、課題について考察する</p> <p>現代世界の貿易と経済について考察する</p> | <p>資源と産業について関心をもち、その課題について意欲的に考えようとしている</p> <p>資源と産業について考察をし、その過程や結果について適切に表現することができる</p> <p>資源と産業について、統計や資料などを活用し、理解することができる</p> <p>資源と産業について、現状や課題などを理解し、その知識を身につけている</p> | 10 |
| 12 月 | まとめと応用問題 | | | 2 |

| | 指導内容 | 科目地理Bの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|----------|--|---|----------|
| 1 月 | まとめと応用問題 | <p>これまでの学習課題を振り返る</p> <p>定着の弱い部分に関して学習を重ねる</p> | <p>学習した知識を使って意欲的にさまざまな課題に取り組んでいる</p> <p>学習した知識を使って様々な課題を考察し表現することができる</p> <p>資料や図表を活用して、様々な課題に応用して考察することができる</p> <p>学習した知識を取捨選択し、課題解決に結び付けることができる</p> | 8 |
| 2 月 | まとめと応用問題 | <p>これまでの学習課題を振り返り、応用問題に取り組む</p> <p>定着の弱い部分に関して学習を重ねる</p> | <p>学習した知識を使って意欲的にさまざまな課題に取り組んでいる</p> <p>学習した知識を使って様々な課題を考察し表現することができる</p> <p>資料や図表を活用して、様々な課題に応用して考察することができる</p> <p>学習した知識を取捨選択し、課題解決に結び付けることができる</p> | 2 |
| 3 月 | まとめと応用問題 | <p>これまでの学習課題を振り返り、応用問題に取り組む</p> <p>定着の弱い部分に関して学習を重ねる</p> | <p>学習した知識を使って意欲的にさまざまな課題に取り組んでいる</p> <p>学習した知識を使って様々な課題を考察し表現することができる</p> <p>資料や図表を活用して、様々な課題に応用して考察することができる</p> <p>学習した知識を取捨選択し、課題解決に結び付けることができる</p> | 2 |

高等学校 令和5年度 (3学年用) 教科 公民 科目 政治・経済

教科: 公民 科目: 政治・経済 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 選択

教科担当者: (選択: 秋田)

使用教科書: (第一学習社「新政治・経済」)

教科 公民 の目標:

【知識及び技能】現代の社会的現象と人間としての在り方生き方に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身につけさせる。

【思考力、判断力、表現力等】現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見出し、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察させ、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現させる。

【学びに向かう力、人間性等】現代の社会と人間に関わる事柄に対する関心を深め、意欲的に課題を追及するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけさせ、人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。

科目 政治・経済 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|--|
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解させる。 | 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論させる。 | 現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追及するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|---------|--------------------------------------|--|---|---|---|---|----------|
| 1 学期 | 法や規範の役割について理解させ、その意義について考えさせる。 | 法や規範の意義と役割 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 | 【知識・技能】 ・法と規範について理解している。 【思考・判断・表現】 ・法と規範について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 選挙と国会内閣裁判所の役割について理解させ、その意義について考えさせる。 | 政治参加と公正な世論形成 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉 | 【知識・技能】 ・民主政治について理解している。 【思考・判断・表現】 ・民主政治について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 2 学期 | 国際法について理解させ、その意義について考えさせる。 | ①国際社会と国際法 ②国際連合の役割と国際協力 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④今日の国際社会 ⑤国際政治の特質と国際紛争の諸要因 ⑥核兵器の廃絶と軍縮問題 ⑦国際平和と日本の役割 | 【知識・技能】 ・国際法について理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際法について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 16 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 資本主義経済について理解させ、その意義について考えさせる。 | ①資本主義経済のしくみとは? ②資本主義経済の課題と社会主義経済の変容 ③経済主体と経済活動 ④市場経済の機能と限界 ⑤景気変動と経済成長 | 【知識・技能】 ・資本主義経済について理解している。 【思考・判断・表現】 ・資本主義経済について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 17 |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |
| 3 学期 | 国際経済の仕組みについて理解させ、その意義について考えさせる。 | ①国際経済のしくみと現状 ②為替相場のしくみ ③国際協調と国際経済機関の役割 ④地域的経済統合の動き ⑤経済摩擦問題とグローバル化 ⑥国際経済の諸問題と日本の役割 | 【知識・技能】 ・国際経済について理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際経済について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 65 |

大山高等学校 令和5年度 教科 数学 科目 数学Ⅲ 年間授業計画

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ 単位数： 6単位

対象学年組： 第3学年)

教科担当者： (白井)

使用教科書： (数研出版 新編数学Ⅲ)

使用教材： (3 TRIAL 数学Ⅲ)

| | 指導内容 | 科目 数学Ⅲ の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-------------|---|--|----------|
| 4 月 | 複素数平面 | <p>○極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解すること。</p> <p>○複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解すること。</p> <p>○複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察すること。</p> <p>○ド・モアブルの定理について理解すること。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 12 |
| 5 月 | 式と曲線 | <p>○放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察すること。</p> <p>○放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解すること。</p> <p>○曲線の媒介変数表示について理解すること。</p> <p>○極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解すること。</p> <p>○複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察すること。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 20 |
| 6 月 | 関数 数列の極限 | <p>○簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。</p> <p>○合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めること。</p> <p>○関数の値の極限について理解すること</p> <p>○数列の極限について理解し、数列 $\{r^n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めること。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 22 |

| | 指導内容 | 科目 数学Ⅲ の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---------------------|--|--|----------|
| 7 月 | 関数の極限 【夏期講習】 | ○関数の値の極限について理解すること。 ○式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察すること。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 15 |
| 8 月 | 微分法 【夏期講習】 | ○ 合成関数の導関数について理解し、それを求めること。 ○ 三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めること。 ○導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察すること。 ○関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察すること。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 10 |
| 9 月 | 微分法の応用 | ○ 導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりすること。 ○関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察すること。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 18 |

| | 指導内容 | 科目 数学Ⅲ の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|--------------------|---|--|----------|
| 10 月 | 微分法の応用 不定積分 | <p>○不定積分及び定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて不定積分や定積分を求めること。</p> <p>○置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めること。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 20 |
| 11 月 | 定積分 積分法の応用 | <p>○定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めること。</p> <p>○関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察すること。</p> <p>○極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察すること。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 18 |
| 12 月 | 入試対策 | ○数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、Bから総合問題を出題し、理解できるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 15 |

| | 指導内容 | 科目 数学Ⅲ の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|------|------------------------------------|--|----------|
| 1 月 | 入試対策 | ○数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、Bから総合問題を出題し、理解できるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 10 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科 理科 科目 生物 年間授業計画

教科： 理科 科目： 生物 単位数： 4単位

対象学年組： 第 3 学年選択者

教科担当者： 曾根 均

使用教科書： (実教出版 生物 改訂版)

使用教材： (実教出版 アクセスノート 生物)

| | 指導内容 | 科目生物の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---|--|---|----------|
| 4 月 | 1章 生物現象と物質 1節 細胞と分子 生体物質と細胞 生命現象とタンパク質 | <ul style="list-style-type: none"> タンパク質の多様性および特異性に基づく機能には、タンパク質分子の立体構造が深く関わっていること、タンパク質の立体構造はそのアミノ酸配列によって決まることを理解させる。 生物体に見られる代謝が酵素の触媒作用によって進められていることを理解させる。 酵素はタンパク質からできていること、生物体内の化学反応の触媒として働いていること、細胞内外の様々な生物現象と関わっていることを理解させる。 タンパク質分子が関わる生物現象の例として、筋収縮、細胞膜における物質の輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達のしくみや免疫現象などがあることを把握させる。 これらのしくみは、それぞれに関係するタンパク質の立体構造が深く関わっていることを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。(授業態度) 生物体にみられるさまざまな働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。(発問評価) 酵素作用や免疫現象・筋収縮などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。(定期考査) | 8 |
| 5 月 | 2節 代謝 代謝とエネルギー 呼吸と発酵の仕組み 光合成 窒素同化 | <ul style="list-style-type: none"> 同化は主に光合成と窒素同化の反応を、異化は呼吸の反応を理解させる。 同化と異化はそれぞれエネルギー吸収反応とエネルギー放出反応であり、エネルギーの出入りやエネルギーの変換の際には、生物体のエネルギーの通貨としてATPが用いられていることを理解させる。 光合成は光エネルギーを化学エネルギーに変換して無機物から有機物を合成する反応であること、呼吸は有機物からエネルギーを解離してATPを生成する反応であることなどを通して同化と異化の意義を理解させる。 呼吸では細胞の微細構造と関連させてクエン酸回路、電子伝達系などの存在とその役割に簡単に触れ、酵素の働きによって複雑な反応が整然と行われていることに気付かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。(授業態度) エネルギーの利用にさいしては、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。(定期考査) 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。(定期考査) | 16 |
| 6 月 | 3節 遺伝情報の発現 DNA DNAの複製 タンパク質の合成 遺伝子発現調節のしくみ バイオテクノロジー | <ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報にしたがって特定のタンパク質が合成され、形質が発現することの概要について理解させる。 DNAの構造や複製、遺伝暗号、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質の合成や形質発現などのしくみを理解させる。 遺伝子はさまざまな要因によって異なるものが発現するよう調節されることで、細胞の分化や形態形成が起こることについて理解させる。 バイオテクノロジーについては、遺伝子操作がさまざまな分野で研究手法として用いられていることを、実例を通して把握させる。 遺伝子組換えや組織培養、核移植、細胞融合などの技術が医療や有用物質の合成、作物の品種改良などに利用されていることを実例を通して把握させる。 バイオテクノロジーの利用については、まだまださまざまな課題があるので、その推進に当たっては十分な配慮が大切であることも理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> DNAが遺伝子として働くしくみや、RNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解しようとする。(授業態度) バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。(発問評価) | 16 |

| | 指導内容 | 科目生物の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|---|---|---|----------|
| 7月 | 第2章 生殖と発生 1節 有性生殖 生殖の種類 染色体と遺伝子 減数分裂と染色体の組み合わせ 遺伝子の伝わり方 | <ul style="list-style-type: none"> ・有性生殖では同形配偶子の接合を行う生物の存在も把握させる。 ・受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができることを重点的に理解させる。 ・減数分裂では、相同染色体の分配によって遺伝的多様性がもたらされることを重点的に理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生殖とはどのようなことか、無性生殖と有性生殖に分け、それぞれの意義について関心をもち、意欲的に理解しようとする。(授業態度) ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができる過程として理解しようとする。(発問評価) | 4 |
| 8月 | | | | |
| 9月 | 2節 動物の発生 動物の配偶子形成と受精 初期発生の過程 形成体と誘導 軸に沿った形態形成のしくみ 3節 植物の発生 被子植物の配偶子形成と受精 胚形成と種子形成 植物の器官分化 | <ul style="list-style-type: none"> ・胚の発生の過程とその仕組みを考察させる。 ・発生の過程では代表的な動物としてウニとカエルを例にあげ、ヒトについても基本的な仕組みは同じであることを理解させる。 ・器官形成は代表的なものについて把握させ、理解させる。 ・発生の仕組みについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってその仕組みが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・被子植物を例に、種子の形成に関連させて胚の発生も理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウニやカエルを例に動物の発生について学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解しようとする。(発問評価) ・生殖細胞がつくられる過程を科学的に考察できる。(発問評価) ・動物について、配偶子のでき方を理解している。(定期考査) ・実験によって、発生のしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。(定期考査) <ul style="list-style-type: none"> ・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。(発問評価) ・代表的な植物である被子植物などについて、配偶子のでき方を理解している。また、種子の形成に関連させて胚の発生の過程も理解している。(定期考査) ・実験によって、発生のしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。(定期考査) | 10 |

| | 指導内容 | 科目生物の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|--|--|--|----------|
| 10 月 | 第3章 生物の環境応答 1節 動物の反応と行動 刺激の受容 神経と神経系の働き 効果器 動物の行動 2節 植物の環境応答 環境応答 植物の成長の調節 光と環境応答 植物の生活と環境応答 | <ul style="list-style-type: none"> 刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握させる。 刺激を受容する器官については、代表的な例を中心に理解させる。 神経の興奮では、興奮の発生・伝導・伝達を理解させる。 脳のつくりでは、大脳、間脳、中脳、小脳、延髄に分けられることや灰白質や白質などについて理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 環境によって制御される、植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などの現象を理解させる。 光屈性の仕組みの解明を通じて、それらの現象が環境との関連でどのように制御されているのか、それが解明されてきた過程を重視して、考察させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 神経系などの巧みな制御機構や調節のしくみによって、安定した内部環境を維持していることを意欲的に理解しようとする。(授業態度) 各受容器の構造と機能、興奮の伝導や伝達のしくみ、興奮の神経における伝達経路について、述べることができる。(発問評価) 骨格筋が収縮するしくみや、学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明できる。(発問評価) 神経の構造と興奮の発生・伝達の関係を理解している。(定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解しようとする。(授業態度) 伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧妙に制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。(発問評価) 植物が外部の環境に影響されてみせるさまざまな現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。(定期考査) | 16 |
| 11 月 | 第4章 生態と環境 1節 個体群とその変動 個体群の性質 個体群にみられる社会性 生物群集の成り立ち 2節 生態系 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 生態系と生物の多様性 | <ul style="list-style-type: none"> 生物と環境とのかかわりについて理解させる。 自然界における生物についての見方や考え方を身につけさせる。 密度効果がない場合とある場合とでは個体群の成長の様式に違いがあることを理解させる。 安定した個体群が維持されるしくみについては、個体群内部におけるしくみや他の個体群との関係を適応戦略などの観点から理解させる。 生物群集内での個体群間の相互作用などを理解させる。 生物群集を構成するさまざまな個体群がそれぞれ特有の生態的地位を占め、相互に関係を保つことにより、生物群集が維持されていることを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 | <ul style="list-style-type: none"> 環境と生物の関係を総合的にとらえようとする。(授業態度) 生物の生活は環境と深い関わりをもつことを、既習知識を活用して考えようとする。(発問評価) 異なる2種の個体群間の関係や、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を明らかにできる。(発問評価) 生物の集団を個体群としてとらえ、そこにみられる現象や法則性を理解している。(定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 既習内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を理解しようとする。(授業態度) 生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察できる。(発問評価) 生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。(定期考査) | 14 |
| 12 月 | 第5章 生物の進化と系統 1節 生物の進化 生命の起源 初期の生物進化 生物の変遷 人類の進化 | <ul style="list-style-type: none"> 生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化にも触れながら、その概要をつかませる。 地質時代の変遷や、ヒトの進化についても理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 地質時代における生物の変遷を、化石をもとに考察し、環境の変化との関連を探究できる。また、霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。(発問評価) 生命の誕生に関する仮説について理解している。(定期考査) | 6 |

| | 指導内容 | 科目生物の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---|--|--|----------|
| 1 月 | 2節 進化のしくみ 進化の考え 突然変異 進化で扱う集団 進化のしくみ 分子進化 3節 生物の系統 系統に基づく分類 3つのドメインによる生物分類 | <ul style="list-style-type: none"> 生物の変異、進化の証拠やその要因、進化説などを理解させる。 集団遺伝については、平易な初歩的事項を理解させる。 分子進化のしくみについては簡単に把握させる。 <ul style="list-style-type: none"> 生物の系統については、細胞の構造、細胞の構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物の持つ様々な特徴の比較から生物の系統関係が明らかになったことを具体的な例を通して理解させる。 ドメインから種のレベルに至る分類の階層や、種の命名法についても具体的な例を示して把握させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。(授業態度) 歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。(定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 生物分類の必要性を理解し、その歴史的な分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。(授業態度) 現在の生物分類と系統を理解しようとする。(授業態度) 現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。(定期考査) | 4 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | | |
|-------|--|-----|--------------|--|--------|-----------|
| 教科名 | 英語 | 科目名 | コミュニケーション英語Ⅲ | | 対象学年・組 | 第3学年1組～5組 |
| | | | | | 担当者 | 品田・西田・橋田 |
| 使用教科書 | All Abroad English CommunicationⅢ (東京書籍) | | | | 履修単位数 | 4単位 |
| 副教材等 | All Abroad English CommunicationⅢ WORKBOOK (東京書籍) チャンクで英単語 Standard (三省堂) チャンクで英単語 Standard ドリルノート 1・2 (三省堂) Get Ahead Student Book1 (OXFORD) | | | | | |

| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
|--|---|
| ①説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることが出来るようにする。 ②聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、話し合ったり意見の交換をしたり、簡潔に書いたりすることが出来るようにする。 ③コミュニケーションを意識し、発話時にリズム、イントネーションの音声的な特徴に注意することができるようにする。 | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(調査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(調査・課題) 【方法】 定期考査5回の得点(65%) 授業や小テスト等の活動への取り組み、課題などの提出状況(35%) |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|---------------|--|--|--------------------|
| 1 学期 38 | Lesson 1 Mystery Circls under the Sea | 奄美大島のミステリーサークルについて | ・動詞の現在形・過去形 |
| | Lesson 2 Gifts to Barcelona | スペインのバルセロナのアントニオ・ガウディの作品について | ・現在完了形 |
| | Lesson 3 Images on Coins | ユーロ硬貨に共通面と国家面があることについて | ・不定詞・動名詞 |
| | Lesson 4 Witnesses of War | 身近な題材から「平和」の問題を発展的に考える | ・受け身 |
| | Lesson 5 Love Letters | アメリカ人のハナ・ブランチャーさんが始めた The World Needs More Love Letters というウェブサイトについて | ・関係代名詞 |
| 2 学期 38 | Lesson 6 The Natural Treasures of Ogasawara | 独自の進化をとげた動植物の楽園である小笠原諸島について | ・仮定法過去 |
| | Lesson 7 The Terracotta Warriors | 中国の世界遺産「秦始皇陵」の「兵馬俑」について | ・関係代名詞：,who .which |
| | Lesson 8 The Journey of Our Clothes | エシカルファッションについて | ・後置修飾の分詞 |
| | Lesson 9 Challenges for the Future | 化石燃料について | ・比較表現 |
| 3 学期 7 | Lesson 10 The Story of Rudy Bridges | ルビーブリッジズについて | ・分詞構文を使った慣用的表現 |
| 計 | 83 | | |

| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
|---|-----------------|
| 【授業中】 ① 説明等をよく聞き、必要なことは適宜メモを取る。 ② 正しい発音を聞き、正しく発音できるように音読をしたり実際に声を出す。 ③ 英文の内容を頭の中で映像化して理解してみる。 【放課後・家庭】 ① 事前にわからない単語を調べたり、単語帳を使って各自で勉強をしたりする。 ② 復習として、英文を見ながら頭の中で授業を思い出しながら意味やポイントを確認する。 ③ スムーズに読めるまで正しい発音・アクセント・イントネーションで音読する。 | 補足のプリント参照。 |

都立大山高等学校 令和5年度 教科 英語 科目 英語表現Ⅱ 年間授業計画

教科：英語 科目：英語表現Ⅱ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：（1組：興梠 小林 藤井）（2組：興梠 小林 藤井）（3組：興梠 小林 藤井）（4組：興梠 小林 藤井）（5組：興梠 藤井）

使用教科書：（Vivid English expressionⅡ 第一学習者）

使用教材：（Vivid English expressionⅡ WORKBOOK 第一学習者）

| | 指導内容 | 英語表現Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|--|--|--|----------|
| 4月 | Lesson1 学校生活 現在形、過去形、進行形 Lesson2 日常生活、交際 現在完了形、現在完了進行形 | 現在形、過去形、進行形【be～ing】、未来表現【will / be going to】の基本的な意味と使い方について理解させる。 現在完了形【have 過去分詞】および、現在完了進行形【have been～ing】の基本的な意味と使い方について理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 2 |
| 5月 | Lesson3 芸術・音楽 過去完了形、過去完了進行形 未来進行形、未来完了 1学期中間考査 Lesson4 買い物 助動詞まとめ、助動詞+have+過去分詞 | 過去完了形【had 過去分詞】、過去完了進行形【had been～ing】、未来進行形【will be～ing】、未来完了形【will have 過去分詞】の基本的な意味と用法を理解させる。 基本的な助動詞【can / may / should / must】、助動詞+have+過去分詞【過去のことに対する後悔、非難 / 過去のことに対する推量】の基本的な意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 4 |
| 6月 | Lesson5 科学 受動態、助動詞+受動態 Lesson6 尊敬する人 進行形、完了形の受動態 群動詞の受動態 | 受動態【be動詞+過去分詞】、助動詞+受動態の基本的な意味と用法を理解させる。 進行形、完了形の受動態【be動詞 being 過去分詞 / have been 過去分詞】、群動詞の受動態の基本的な意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 4 |

| | 指導内容 | 英語表現Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|--|---|---|----------|
| 7 月 | <p>1 学期末考査</p> <p>Lesson7 勉強・テスト to不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法</p> <p>Lesson8 言語 seem to不定詞、it seems that S V O(it) C to不定詞</p> | <p>to不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法の基本的な意味と用法を理解させる。</p> <p>seem to不定詞、it seems that S V O(it) C to不定詞の基本的な意味と用法を理解させる。</p> | <p>Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】</p> <p>Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】</p> | 2 |
| 8 月 | | | | |
| 9 月 | <p>Lesson9 仕事、職業 it takes (costs) … to不定詞 to不定詞+前置詞</p> <p>Lesson10 修学旅行 動名詞、S+V+O (動名詞、to不定詞)</p> | <p>it takes (costs) … to不定詞「～するのに…時間(円)かかる」 to不定詞+前置詞の基本的な意味と用法を理解させる。</p> <p>動名詞【～ing】、S+V+O(動名詞、to不定詞)の基本的な意味と用法を理解させる。後ろに動名詞を取る動詞と、後ろにto不定詞を取る動詞、その両方を取る動詞等、繰り返し指導して徹底させる。</p> | <p>Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】</p> <p>Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】</p> | 3 |

| | 指導内容 | 英語表現Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|--|---|--|----------|
| 10月 | Lesson11 新聞・雑誌 動名詞の否定と意味上の主語 完了形の動名詞 Lesson12 訪問・招待 分詞 2学期中間考査 | 動名詞の否定【not ～ing】と意味上の主語 完了形の動名詞【having 過去分詞】の基本的な意味と用法を理解させる。 分詞の形容詞的用法【～している…(現在分詞)、～されている…(過去分詞)】、分詞の叙述用法【文の中でCになる用法】の基本的な意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 4 |
| 11月 | Lesson13 公共・ルール 知覚動詞+0+原形(分詞) 使役動詞+0+原形、have+0+過去分詞 Lesson14 旅行・交通 ～ingを含む表現 with 名詞 分詞 | 知覚動詞+0+原形(分詞) 使役動詞+0+原形、have+0+過去分詞の基本的な意味と用法を理解させる。 ～ingを含む表現【spend ～ing】【there is O ～ing】 with 名詞 分詞【付帯状況】の基本的な意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 4 |
| 12月 | 2学期末考査 Lesson15 環境・社会 比較、劣等比較、倍数表現 Lesson16 歴史 比較級、最上級の強調 比較級を用いた表現 | 原級を使った比較【as原級as】、比較級【比較級+than】、最上級【the 最上級】、【less 比較級 than】【…times as 原級 as】の基本的な意味と用法を理解させる。 比較級、最上級の強調【much / by far】 比較級を用いた表現【The比較級+the比較級】【比較級and 比較級】の基本的な意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 3 |

| | 指導内容 | 英語表現Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---------------------------------|---|--|----------|
| 1 月 | Lesson17 平和 接続詞 学年末考査 | 基本的な接続詞【when while (時) unless (条件) though even if (譲歩)】の意味と用法を理解させる。 原因、理由、目的、結果等を表す接続詞の意味と用法を理解させる。 | Lesson内の文法の意味と用法を理解している。【問題演習の正答率等】 Lesson内の文法表現を用いて自分の考えを表現している。【Try It!への取り組み状況等】 | 2 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

都立大山高等学校 令和5年度 教科：英語 科目：英語会話 年間授業計画

教科：英語科 目：実用英語 単位数：2単位
 対象学年組：第3学年1組～5組
 教科担当者：(1-5組：藤井)
 使用教科書：(Hello there! English Conversation: 東京書籍)
 使用教材：(Active Practical Reading 基本編:第一学習社)

| | 指導内容 | 実用英語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|--|--|--|----------|
| 4月 | Unit1 introduction Lesson1 Nice to meet you | [表現] ●自分を紹介する ・I' m Emily Green. ・My name is Tanaka Megumi. ●きき返す ・I' m sorry. I didn' t catch your name. ●あいさつをする ・Nice to meet you, Meg. ●意味を尋ねる・説明する ・What does the name "Megumi" mean? —It means "blessing." [文法事項] ・be動詞と一般動詞 ・短縮形 ・助動詞 (shall) ・文構造 | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 6 |
| 5月 | Lesson 2 Hello, Friends! | [表現] ●許可を求める・与える ・May I ask you about yourself? —Go right ahead. ●相手について尋ねる・答える ・Where are you from? —I' m from Canada. ・How do you usually get to school? ●リストアップする ・First, … / Second, … / Finally, … [文法事項] ・助動詞 (may) ・疑問詞を用いた疑問文 ・tooとeitherの使い分け | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 4 |
| 6月 | Sakura' s Adventure Episode 1 At Immigration Lesson 3 My Favorite Music | [表現] ●入国審査 ・May I see your passport? ・What' s the purpose of your visit? ・How long will you stay? ・Just a moment. ・Do you have a return ticket? [表現] ●意見を言う ・They' re cool. ●リストアップする ・A keyboard player, two guitarists, a lead singer, and myself. (列挙して説明) [文法事項] ・What＋名詞を用いた疑問文 ・存在を表すthere is[are]～の構文 ・助動詞 (can) ・楽器名の前につく定冠詞 ・平叙文の語順での疑問文 | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】中間考査、授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 8 |

| | 指導内容 | 実用英語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|--|---|---|----------|
| 7月 | Lesson 4 What Are You Crazy about? Sakura's Adventure Episode 2 How about Going Shopping? | <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リストアップする <ul style="list-style-type: none"> ・First, the helmet. Second, the pads. Third, your friends. (理由) ●興味・関心を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・We're crazy about skateboarding. ・I love them! ●誘う・誘いを断る <ul style="list-style-type: none"> ・Would you like to join us? —No way! ・Come on! —Maybe next time. <p>[文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形 ・助動詞 (would / might) ・be going to do <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●買い物 <ul style="list-style-type: none"> ・May I help you? ・Can I see that blue sweater, please? ・Do you have another color? ・Can I try it on? ・The sleeves are too short. ・It's a little over my budget. | <p>【観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) <p>【方法】 期末考査、授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況</p> | 4 |
| 8月 | | | | |
| 9月 | Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner Sakura's Adventure Episode 3 At a Restaurant | <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同情する <ul style="list-style-type: none"> ・Oh, that's too bad. ●事情を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・No wonder you feel tired. ●助言する <ul style="list-style-type: none"> ・You should eat breakfast every day. <p>[文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞shouldの用法 ・現在進行形 (未来) ・命令文 <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レストランでの注文 <ul style="list-style-type: none"> ・Can I take your order? ・How would you like your eggs done? ・Anything else? ・That's it for now. ・Excuse me, but this is not what I ordered. | <p>【観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) <p>【方法】 授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況</p> | 4 |

| | 指導内容 | 実用英語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|---|--|--|----------|
| 10月 | Lesson 7 Talking about Our Town Lesson 8 Traditional Culture | [表現] ●描写する ・ It' s about twenty kilometers northwest of Boston. (距離・方角) ・ What' s it like there? —It' s beautiful, and famous, too. (場所の特徴) [文法事項] ・ 時間と距離・方角に関するitの用法 ・ 歴史年号の読み方 ・ 助動詞couldの用法 [表現] ●予定を尋ねる・答える ・ Any plans for the winter vacation? —I' m visiting my family in Seoul. ●習慣を尋ねる ・ What do people do there during the New Year holidays? ・ What do you typically eat on New Year' s Day? ●説明する ・ We eat tteokguk, or clear beef soup with slices of mochi. ・ We put on toppings such as vegetables, kim, and thinly-sliced pieces of omelet. | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】中間考査、授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 4 |
| 11月 | Sakura' s Adventure Episode 4 Getting Lost | [表現] ●道案内 ・ Could I ask you something? ・ How do I get to the New Amsterdam Theatre? ・ Go this way for five blocks. ・ Turn right at 42nd Street. ・ You' ll see the theater on your right. | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 6 |
| 12月 | Lesson 9 Equal Roles | [表現] ●感想・感情を述べる ・ What a delicious-looking lunch! ・ That' s terrific! ・ I' m embarrassed to say that I don' t help out at all. [文法事項] ・ to不定詞 + that節 ・ 感嘆文 What a/an ~! ・ 否定詞notを含む疑問文 (復習) Why don' t you~? | 【観点】 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) 【方法】期末考査、授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況 | 4 |

| | 指導内容 | 実用英語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---------------------------------|--|---|----------|
| 1 月 | Lesson 10 Helping Each Other | <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●推測する・主張する <ul style="list-style-type: none"> ・ I guess buying their products creates more jobs. ・ I think they can be more financially independent that way. ●描写する <ul style="list-style-type: none"> ・ It' s a beautiful country, but there isn' t enough work for the people. <p>[文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動名詞主語 <ul style="list-style-type: none"> ・ (I guess) buying their products creates ... ・ What is ~ like? | <p>【観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 外国語表現の能力…適切に自分の考えを書いたり話したりして伝えられているか。(活動) ③ 外国語理解の能力…文章を読んだり英語を聞いたりして情報を捉えて趣旨を理解できているか。(考査・課題・活動) ④ 言語や文化についての知識・理解…学習内容を理解しているか。(考査・課題) <p>【方法】 期末考査、授業や小テスト等の活動への取り組み。課題などの提出状況</p> | 4 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|-------|--------|-----------|
| 教科名 | 情報科 | 科目名 | 情報の科学 | 対象学年・組 | 第3学年1組～5組 |
| | | | | 担当者 | 河合 |
| 使用教科書 | 実教出版 最新情報の科学 新訂版 | | | 履修単位数 | 2単位 |
| 副教材等 | なし | | | | |

| | |
|--|---|
| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
| 1. 情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させる。 2. 情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させる。 3. 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。 | 【観点】 ① 関心・意欲・態度…積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。(授業態度) ② 思考・判断…学習内容を理解しているか。(考查・課題) ③ 技能・表現…情報化における諸事情の基本知識・技術を習得し、問題解決のための過程や結果を的確に考えることができるか。(考查・課題) ④ 知識・理解…情報化における諸知識を時系列かつ体系的に理解しているか。(考查) 【方法】90%・・・定期考查3回の得点 10%・・・授業への取り組み、課題などの提出状況。 |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|---------|----|---|--|
| 1 学期 | 21 | オリエンテーション 序章 情報社会と私たち 1章 情報とコンピュータ 2章 ネットワークの仕組みと情報システム 3章 問題解決のためのコンピュータ活用 | 1. デジタルとアナログ 2. デジタル情報の特徴 3. 情報量と単位 4. 2進数と16進数 5. コンピュータが計算する仕組み 1. 数値の表現と計算 2. 文字の表現 3. 音の表現 4. 画像の表現 5. データの圧縮と効率化 1. コンピュータの構成 2. コンピュータの動作 1. ネットワークの構成 2. 情報通信の取り決め 3. インターネットの仕組み 1. 情報システムと情報の流れ 2. 情報セキュリティ 1. 問題解決の方法と手順 2. 問題解決の手法 |
| 2 学期 | 28 | 4章 ネットワークとデータベースの活用 2. アルゴリズム 3. モデル化とシミュレーション 1. ネットワークの活用 2. データベース | 1. アルゴリズムとは 2. アルゴリズムの基本構造 3. プログラムの活用 1. モデル化 2. 同系モデルのモデル化とシミュレーション 3. 確率的モデルのモデル化とシミュレーション 1. 情報の収集 2. 情報の共有 1. データベースとは 2. 身近なデータベースの活用 |
| 3 学期 | 6 | 5章 情報技術と社会 1. 情報化による生活の変化 2. 情報技術による社会の発展 | 1. 社会を支える情報技術 2. 人にやさしい情報技術 3. 知的財産権 4. 個人情報の保護と情報公開 1. ネットワークコミュニケーション 2. 情報社会の発展と諸問題 |
| 計 | 55 | | |

| | |
|---|-----------------|
| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
| 【授業中】 ① 教科書の該当部分を読んでから、授業に参加する。 ② 教員による解説をよく聴き、板書以外もメモを取る。 ③ グループ学習やペアワークでは積極的に発言等を行う。 【放課後・家庭】 ① その日のうちに重要事項を確認し、ノートやプリントを整理する。 ② わからない点は教員に質問するなどして、必ず解決する。 ③ 小テストや定期考查で、できなかつた部分の直しをする。 ④ 参考となる書籍等に触れ、歴史への興味・関心を高める。 | |

大山高等学校 令和5年度 教科国語 科目現代文演習ⅡAD 年間授業計画

教科：国語 科目：現代文演習ⅡAD 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：(1～6組：白戸麗羅)

使用教科書：()

使用教材：(大学入学共通テスト準備演習 論理・文学編 (数研出版) キーワードの卵 (尚文出版))

| | 指導内容 | 科目現代文演習ⅡADの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|--|--|---|----------|
| 4月 | ①日本人とアイデンティティ (評論) 読解 ①素足の娘 (小説) 読解 大学入試過去問 (評論、小説) 読解 | 『大学入学共通テスト準備演習 論理・文学編』を用いてたどえの内容を読み取る 感情移入することなく、客観的に心情の変化を読み取ることができる。 文章をしっかり読み解き、記述式問題で採点基準ポイントを押さえたうえで、文章を組み立てることができる。 | 関心・意欲・態度 (授業観察・ワーク) 読む能力 (定期考査、記述問題) 知識・理解 (定期考査) | 4 |
| 5月 | 大学入試過去問 (評論、小説) ②日本の文化構造 (評論) ①スマホトラブルについて (実用的文書) 読解 中間考査の復習 | 文章をしっかり読み解き、記述式問題で採点基準ポイントを押さえたうえで、文章を組み立てることができる。 文章表現について、選択肢からの確に正しいものを選ぶための、文章の読み解き方を把握する。 グラフや資料を読み取り、選択肢からの確に正しいものを選ぶことができる。 初見問題で取り入れた問題の解説。 | 関心・意欲・態度 (授業観察・ワーク) 読む能力 (定期考査、記述問題) 知識・理解 (定期考査) | 6 |
| 6月 | ②文鳥 (小説) ③新修辞学 (評論) 読解 ③りん、りん、りん (小説) 読解 模試過去問 (小説) 読解 | 登場人物の台詞、動作、情景に注意しながら心情の変化を読み取ることができる。 メタファーが思考や行為の問題であるとする筆者の考えを理解する。 本文での表現の言いかえを把握する。 登場人物の台詞、動作、情景に注意しながら心情の変化を読み取ることができる。 | 関心・意欲・態度 (授業観察・ワーク) 読む能力 (定期考査、記述問題) 知識・理解 (定期考査) | 8 |
| 7月 | 期末考査の復習 | 初見問題で取り入れた問題の解説。評論文と小説の読解方法総復習し、定着させる。 | 関心・意欲・態度 (授業観察・ワーク) 読む能力 (定期考査、記述問題) 知識・理解 (定期考査) | 2 |

| | 指導内容 | 科目現代文演習ⅡADの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|--|--|--|----------|
| 8 月 | | | | |
| 9 月 | ④うわさとは何か・科学者という仕事（評論）読解 ④雨をわたる（小説）読解 ⑤科学の目 科学のころ・ハンディキャップの原理（評論）読解 ⑤ひこばえに咲く（小説）読解 | 文章1と文章2の二つの文章を読み解く。 母に対する主人公の思いの推移を把握する。 文章1と文章2の二つの文章を読み解く。 小説を読んだあとの、生徒Aと生徒Bの話し合いについて、小説と比較して読み進める。 | 関心・意欲・態度（授業観察・ワーク）読む能力（定期考査、記述問題）知識・理解（定期考査） | 8 |
| 10 月 | 入試対策問題読解 模試過去問（評論）読解 中間考査の復習 | 接続詞に注意しながら具体例と筆者の主張との関係を理解することができる。 指示語の指す内容や抽象的な表現を読み取ることができる。 初見問題で取り入れた問題の解説。 | 関心・意欲・態度（授業観察・ワーク）読む能力（定期考査、記述問題）知識・理解（定期考査） | 6 |
| 11 月 | ⑥街場の読書論・デジタル時代の著作権（評論）読解 ⑥黒い裾（小説）読解 ⑦遊びと文化（評論）読解 ⑦利休の死・利休の闇（小説）読解 | 文章1と文章2の二つの文章を読み解く。 小説を読んだあとの、生徒Aと生徒Bの話し合いについて、小説と比較して読み進める。 図の資料を読み解く 文章1と文章2の二つの文章を読み解く。 | 関心・意欲・態度（授業観察・ワーク）読む能力（定期考査、記述問題）知識・理解（定期考査） | 8 |
| 12 月 | 期末考査の復習 入試対策問題読解 | 初見問題で取り入れた問題の解説。 接続詞に注意しながら具体例と筆者の主張との関係を理解することができる。 | 関心・意欲・態度（授業観察・ワーク）読む能力（定期考査、記述問題）知識・理解（定期考査） | 4 |
| 1 月 | 入試対策問題読解 入試対策問題読解 | 文中からキーワードを見つけ、根拠を明確にしながら読み取ることができる。 文中からキーワードを見つけ、根拠を明確にしながら読み取ることができる。 | 関心・意欲・態度（授業観察・ワーク）読む能力（定期考査、記述問題）知識・理解（定期考査） | 4 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科国語 科目実用国語 年間授業計画

教科：国語 科目：実用国語 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：(1組～5組：佐藤 邑)

使用教科書：()

使用教材：(パスポート国語必携四改訂(桐原書店))

| | 指導内容 | 科目実用国語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|--------------------|------------------------------|---|----------|
| 4 月 | 漢字の読み書き | 「パスポート国語必携」の基礎編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | 4～6 |
| | 同訓異字・同音異義語・対義語・類義語 | | | |
| | ことわざ・慣用句 | | | |
| | 日本文学史 | | | |
| | 文章表現 | | | |
| 5 月 | 漢字の読み書き | 「パスポート国語必携」の基礎編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | 8～4 |
| | 同訓異字・同音異義語・対義語・類義語 | | | |
| | ことわざ・慣用句・故事成語・四字熟語 | | | |
| | 日本文学史 | | | |
| | 文章表現 | | | |
| 6 月 | 漢字の読み書き | 「パスポート国語必携」の基礎編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | 8 |
| | 同訓異字・同音異義語・対義語・類義語 | | | |
| | 故事成語・四字熟語 | | | |
| | 日本文学史 | | | |
| | 文章表現 | | | |

| | 指導内容 | 科目実用国語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|--------------------|------------------------------|---------------------------------------|----------|
| 7月 | 期末考査の復習 | 1学期期末考査の復習を行い、知識を定着させる。 | 定期考査で間違えた問題の解きなおしをし、テスト勉強の振り返りができている。 | 2 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 8月 | | | | |
| 9月 | 漢字の読み書き、同訓異字・同音異義語 | 「パスポート国語必携」の発展編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 | 6～ 4 |
| | 故事成語 | | 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 | |
| | 四字熟語 | | | |
| | 日本文学史 | | 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | |
| | 文章表現 | | | |
| 10月 | 漢字の読み書き、同訓異字・同音異義語 | 「パスポート国語必携」の発展編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 | 8～ 4 |
| | 故事成語 | | 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 | |
| | 四字熟語 | | | |
| | 日本文学史 | | 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | |
| | 文章表現 | | | |
| 11月 | 漢字の読み書き、同訓異字・同音異義語 | 「パスポート国語必携」の発展編・表現編を解き、理解する。 | ことわざや慣用句、文学史などの国語知識を身に付けている。 | 8～ 6 |
| | 故事成語 | | 文章の整え方や作文の書き方など文を書くための基礎を習得している。 | |
| | 四字熟語 | | | |
| | 日本文学史 | | 授業時でのワークの取り組み状況や小テスト、定期考査などで総合的に評価する。 | |
| | 文章表現 | | | |

| | 指導内容 | 科目実用国語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|---------|-------------------------|---|----------|
| 12月 | 期末考査の復習 | 2学期期末考査の復習を行い、知識を定着させる。 | 定期考査で間違えた問題の解きなおしをし、テスト勉強の振り返りができている。 | 2～4 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 1月 | 総復習 | 総復習を行い、知識の定着をさせる。 | 今までで扱った国語常識が身についている。 プリントやワークの取り組み状況を見て評価する。 | 8 |
| | | | | |
| 2月 | 総復習 | 総復習を行い、知識の定着をさせる。 | 今までで扱った国語常識が身についている。 プリントやワークの取り組み状況を見て評価する。 | 8 |
| | | | | |

| | 指導内容 | 科目実用国語の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|------|-------------------|-------------------------|----------|
| 3 月 | 総復習 | 総復習を行い、知識の定着をさせる。 | 今までで扱った国語常識が身についている。 | 2 |
| | | | プリントやワークの取り組み状況を見て評価する。 | |

令和5年度 年間授業計画

| | | | | | | |
|-------|--|-----|--------|--------|-----------------|--|
| 教科名 | 地理歴史科 | 科目名 | 世界史演習Ⅱ | 対象学年・組 | 第3学年1組～5組（選択科目） | |
| | | | | 担当者 | 太田 規之 | |
| 使用教科書 | 『詳説 世界史B』/山川出版社（山川世B310） | | | 履修単位数 | 4単位 | |
| 副教材等 | 『アカデミア世界史』/浜島書店 『山川 一問一答 世界史 第3版』/山川出版社 『2024年入試 大学入学共通テスト 世界史B重要問題集』/実教出版 | | | | | |

| | |
|---|--|
| この科目を学習するねらい・目標 | 評価の観点・方法 |
| ①必修の授業で扱わない地域・時代の世界の歴史を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 ②年表・地図、その他資料から世界の歴史に関わる情報を読み取ることを通して、歴史的思考力・判断力・表現力を身につける。 ③自国の歴史に対する愛情とともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。 ④将来、ニュースや新聞等を通して、世界の出来事について関心を持つ。 ⑤大学入試の一般受験において、しっかり学習の成果が出せるようにする。 | 【観点】 ① 関心・意欲・態度…板書、発問に対する発言、話を聞く姿勢など積極的に授業に参加し、授業を理解しようとしているか。（授業態度・考査） ② 思考・判断…歴史的事象の因果関係や発問に対して、きちんと考えているか。（授業態度・考査） ③ 技能・表現…諸資料を読み取り、発言（解答）しようとしているか。（授業態度・考査） ④ 知識・理解…授業内容を知識として理解しているか。（考査） 【方法】 100%・・・定期考査5回の得点 加点対象・・・授業態度・小テストの得点 |

| 配当時数 | 単元 | 項目 | 学習内容 |
|---------------|--------------------|------------------------|---|
| 1 学期 46 | 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 | 1 ヨーロッパ世界の成立 | 地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていたことを理解する。 |
| | | 2 東ヨーロッパ世界の成立 | ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。 |
| | | 3 ヨーロッパ中世世界の変容 | 十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 |
| | | 4 ヨーロッパの中世文化 | 教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。 |
| | 第4章 イスラム世界の形成と発展 | 1 イスラム世界の形成 | イスラム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラム帝国の形成を理解する。 |
| | | 2 イスラム世界の発展 | トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムの連携を維持しながらイスラム世界を拡大させていった過程を理解する。 |
| | | 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラム化 | インド・東南アジア・アフリカのイスラム化など、イスラム世界の拡大の過程を理解する。 |
| | | 4 イスラム文明の発展 | イスラム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。 |
| | 第7章 アジア諸地域の繁栄 | 3 トルコ・イラン世界の展開 | トルコ・イラン世界に誕生したイスラム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。 |
| | | 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 | 南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。 |
| | | 1 東アジア世界の動向 | 中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。 |
| | | 2 清代の中国と隣接諸地域 | 清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。 |
| 2 学期 42 | 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 | 1 帝国主義と列強の展開 | 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 |
| | | 2 世界分割と列強対立 | 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割と植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 |
| | 第14章 二つの世界大戦 | 1 第一次世界大戦とロシア革命 | 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解する。 |
| | | 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 | 国際協力を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。 |
| | | 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 | 中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。 |
| | | 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 | 世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する。 |
| | 第15章 冷戦と第三世界の独立 | 5 第二次世界大戦 | 第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。 |
| | | 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 | 第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 |
| | | 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 | 朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。 |
| | | 3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り | 米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。 |
| 3 学期 6 | 入試問題演習 | | |
| 計 | 94 | | |

| | |
|---|---|
| 学習を進める上での注意点 | 学習の参考となる書籍、DVD等 |
| 【授業中】 ①授業をよく聞く。 ②板書内容を授業プリントに写す。板書以外のメモも取る。 ③発問に対して、答えを探したり、しっかり考えたりし、発言する。 ④不必要な私語はしない。 【放課後・家庭】 ①授業を聞いて不明点があれば、その日のうちに担当教員に質問し、解決する。 ②毎授業後に授業プリントを持ち帰って復習をする。重要用語を書いて覚えたり、その内容を説明できるようにする。宿題で出された問題演習に取り組む。 ③興味があれば、右の書籍や新聞の国際欄、テレビニュース等に触れる。 | 【書籍】 中谷功治『ビザンツ帝国』（2020年、中公新書） 坂井榮八郎『ドイツ史10講』（2003年、岩波新書） 君塚直隆『物語 イギリスの歴史（上・下）』（2015年、中公新書） 小笠原弘幸『オスマン帝国 繁栄と衰亡の600年史』（2018年、中公新書） 木村靖二『第一次世界大戦』（2014年、ちくま新書） 大木毅『独ソ戦 絶滅戦争の惨禍』（2019年、岩波新書） 【DVD】 『薔薇の名前』（1986年）…中世の修道院と異端審問 『ジャンヌダルク』（1999年）…百年戦争期のフランス 『西部戦線異状なし』（1930年）…第1次世界大戦 『パール＝ハーバー』（2001年）…太平洋戦争 『ヒトラー～最後の12日間～』（2004年）…第2次世界大戦期のドイツ |

大山高等学校 令和5年度 教科 地理歴史 科目 日本史演習Ⅱ 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：日本史演習Ⅱ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年 火曜選択

教科担当者：(山田淳)

使用教科書：(改訂版『詳説 日本史B』(山川出版社))

使用教材：(『最新 日本史図表 五訂版』(第一学習社))

| | 指導内容 | 科目日本史演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|--------------------------|--|--|----------|
| 4 月 | 院政と平氏の台頭 | 延久の使用圖整理令の内容と意義を理解する 院政の内容と課題を理解する 保元・平治の乱の内容と影響を考察する。 平氏政権成立の意義と課題を考察する。 院政期の文化について理解する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 6 |
| 5 月 | 鎌倉幕府の成立 武士の社会 | 源平の争乱の内容を考察する。 鎌倉幕府誕生の経緯と意義を考察する。 鎌倉幕府の機構を理解する。 北条氏台頭の経緯と承久の乱の意義を考察する。 執権政治の内容と鎌倉期の武士の様子を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |
| 6 月 | 蒙古襲来と幕府の衰退 | 蒙古襲来の背景と影響を考察する。 鎌倉期の庶民の様子を考察する。 鎌倉政権の衰退の背景を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |

| | 指導内容 | 科目日本史演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|---------|--|--|------------------|
| 7 月 | 鎌倉文化 | 鎌倉時代の仏教の内容について考察する。 中世文学について考察する。 鎌倉期の芸術について考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 4 |
| 8 月 | | | | |
| 9 月 | 室町幕府の成立 | 鎌倉幕府滅亡の背景と経緯を考察する。 建武の新政の経緯と課題を考察する。 南北朝の動乱の経緯を考察する。 室町政権の機構と課題を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |

| | 指導内容 | 科目日本史演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|-------------|---|--|----------|
| 10 月 | 幕府の衰退と庶民の台頭 | 室町期の農村の様子を考察する。 土一揆発生の背景を考察する。 応仁の乱発生の原因と影響を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |
| 11 月 | 室町文化 | 南北朝期の文化の特徴と内容を考察する。 北山文化の特徴を考察する。 東山文化の特徴を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 指導目標の内容を理解しているか。 | 8 |
| 12 月 | 戦国大名の登場 | 戦国大名の誕生の経緯を考察する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 6 |

| | 指導内容 | 科目日本史演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-------------|-------------------|------------------|----------|
| 1 月 | これまでのまとめと演習 | 演習問題を解答する。 | 指導目標の内容を理解しているか。 | 2 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

高等学校 令和5年度 (3学年用) 教科 公民 科目 社会総合

教科: 公民 科目: 社会総合 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 選択

教科担当者: (選択: 秋田)

使用教科書: (なし)

教科 公民 の目標:

【知識及び技能】現代の社会的現象と人間としての在り方生き方に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身につけさせる。

【思考力、判断力、表現力等】現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見出し、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察させ、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現させる。

【学びに向かう力、人間性等】現代の社会と人間に関わる事柄に対する関心を深め、意欲的に課題を追及するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけさせ、人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。

科目 社会総合 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解させる。 | 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論させる。 | よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決する態度を育ませる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 | |
|-------------|----------------------------------|----------|---|---|---|---|----------|----|
| | | | | | | | | |
| 1 学 期 | ・青年期について理解させ自己理解を深めさせる。 | ・青年期とは | 【知識・技能】 ・青年期について理解している。 【思考・判断・表現】 ・青年期について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 12 | |
| | ・情報社会について理解させ、現代の課題について考えさせる。 | ・情報社会の課題 | 【知識・技能】 ・情報社会について理解している。 【思考・判断・表現】 ・情報社会について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 13 | |
| 2 学 期 | ・環境問題について理解させ、現代の課題について考えさせる。 | ・環境問題の課題 | 【知識・技能】 ・環境問題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・環境問題について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 17 | |
| | ・生命倫理について理解させ、現代の課題について考えさせる。 | ・生命倫理の課題 | 【知識・技能】 ・生命倫理について理解している。 【思考・判断・表現】 ・生命倫理について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 18 | |
| 3 学 期 | ・国際社会の課題について理解させ、現代の課題について考えさせる。 | ・国際社会の課題 | 【知識・技能】 ・国際社会の課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の課題について考え、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループワークやワークシートに意欲的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 4 | |
| | | | | | | | 合計 | |
| | | | | | | | | 64 |

東京都立大山高等学校 令和5年度 教科数学 科目数学演習Ⅱ 年間授業計画

教科： 数学 科 目： 数学演習Ⅱ 単位数： 2単位

対象学年組： 第3学年（1組～5組）

教科担当者： 工藤 昭

使用教科書： （ なし ）

使用教材： （改訂版 リンク 数学演習Ⅰ・A 受験編 ）

| | 指導内容 | 科目数学演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------------------------|--|--|----------|
| 4 月 | 式の展開・因数分解・金剛を含む式の計算・ | 基本的な式の展開と因数分解ができるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 4 |
| 5 月 | 1次、2次関数のグラフ、中間考査、2次関数の最大、最小 | 2次式の平方完成、2次関数のグラフをきちんと描き、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 9 |
| 6 月 | グラフと2次方程式、グラフと2次不等式、 | 2次関数の決定と2次方程式、2次不等式、x軸と2次関数の共有点を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 8 |

| | 指導内容 | 科目数学演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-------------------|------------------------------------|--|----------|
| 7 月 | 期末考査、1学期の振り返り | 期末考査、1学期のまとめ | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 5 |
| 8 月 | | 夏季休業 | | |
| 9 月 | 三角比の式の値、正弦定理、余弦定理 | 三角比の式の値、正弦定理、余弦定理を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 6 |

| | 指導内容 | 科目数学演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|------------------------|---|--|----------|
| 10 月 | 三角比の応用問題、中間考査、集合 | 三角比の応用問題、中間考査、集合を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 9 |
| 11 月 | 三角形の内心、外信、重心、円に内接する四角形 | 三角形の内心、外信、重心、円に内接する四角形を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 8 |
| 12 月 | 期末考査、最大公約数、最小公倍数 | 最大公約数、最小公倍数を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 5 |

| | 指導内容 | 科目数学演習Ⅱの具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---------|--------------------------|--|----------|
| 1 月 | 方程式と整数解 | 方程式と整数解を理解し、問題が解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 2 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

東京都立大山高等学校 令和5年度 教科数学 科目数学演習Ⅲ 年間授業計画

教科：数学 科目：数学演習Ⅲ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年（1組～5組）

教科担当者：白井貴大

使用教科書：（なし）

使用教材：（整理と演習 完成ワーク数学 書き込み式）

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|-------------------------------|---|--|------------------|
| 4 月 | 式の展開・因数分解・金剛を含む式の計算 データの分析 | 基本的な式の展開と因数分解ができるようにする。 平均値や中央値を求められるようにする。 グラフから代表値を導くことができるようにする | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 4 |
| 5 月 | 方程式全般、不等式 データの分析 | 1次、2次、連立方程式の計算をそれぞれできるようにする。 分散や標準偏差を求められるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 9 |
| 6 月 | 文章問題 | SPI等に出題される問題を想定した計算力を身に付けられるようにする。 数学検定の過去問を解き、準2級の力を身に付けられるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 8 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|----------|-------------------------|--|----------|
| 7月 | 1学期の振り返り | 演習 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 5 |
| 8月 | | 夏季休業 | | |
| 9月 | 関数全般 | 1次、2次関数を用いた問題を解けるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 6 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|------|---|--|----------|
| 10 月 | 図形全般 | 角度や辺の長さを図形の特徴を用いて求められるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 9 |
| 11 月 | 確率 | 確率を求められようようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 8 |
| 12 月 | 総合問題 | SPI等に出題される問題を想定した計算力を身に付けられるようにする。 数学検定の過去問を解き、準2級の力を身に付けられるようにする。 | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 5 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|------|--|--|----------|
| 1 月 | 総合問題 | <p>SPI等に出題される問題を想定した計算力を身に付けられるようにする。</p> <p>数学検定の過去問を解き、準2級の力を身に付けられるようにする。</p> | 小テスト、発問などで生徒の理解度を把握する。問題集、ノートの提出。定期考査の素点などを総合的に判断する。 | 2 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科 体育 科目 球技 年間授業計画

教科：体育 科目：選択球技 単位数：2単位

対象学年組：第3学年選択者)

教科担当者：伊藤・小林・馬場・佐藤

使用教科書：(大修館 現代高等保健体育)

使用教材：(Active Sports)

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-------------------------------------|--|--|----------|
| 4 月 | オリエンテーション 指導案作成 | 指導案を作成し教員役を行うこと、評価のつけ方等について説明をする。 教員役として、安全を確保し、運動の中で得意不得意に関わらず、男女共修の中で体格や体力の差に配慮し、教え合いながら取り組むことが出来る案を作成させる。 | 話を聞く態度 指導案の出来栄え | 4 |
| 5 月 | サッカー ソフトボール テニス | 教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。 また、外種目のため、熱中症等の対策を立てさせる。また雨天時の対応も考えさせる。 | 教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか | 6 |
| 6 月 | バドミントン ハンドボール アルティメット | 教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。 また、外種目のため、熱中症等の対策を立てさせる。また雨天時の対応も考えさせる。 | 教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか | 6 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|------------------------|--|--|----------|
| 7月 | バスケットボール バレーボール | <p>教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。</p> <p>また、中種目のため、喚起や熱中症等の対策を立てさせる。</p> | <p>教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか</p> | 4 |
| 8月 | | | | |
| 9月 | 指導案作成 | <p>1学期とは別の種目の指導案を作成し教員役を行うこと、評価のつけ方等について説明をする。 1学期に出たg反省を生かした案にする。</p> | | 2 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|-------------------------------------|--|--|----------|
| 10 月 | サッカー ソフトボール テニス | <p>教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。</p> <p>また、外種目のため、熱中症等の対策を立てさせる。また雨天時の対応も考えさせる。</p> | <p>教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか</p> | 6 |
| 11 月 | バドミントン ハンドボール アルティメット | <p>教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。</p> <p>また、外種目のため、熱中症等の対策を立てさせる。また雨天時の対応も考えさせる。</p> | <p>教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか</p> | 6 |
| 12 月 | バスケットボール バレーボール | <p>教員役としては自分の立てた案が円滑に進行できるよう指示を出す。 生徒役としては安全に授業を行うための方法に配慮しながら声を掛け合う。</p> <p>また、中種目のため、喚起や熱中症等の対策を立てさせる。</p> | <p>教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか</p> | 4 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|----------------|--|--|----------|
| 1 月 | 外種目 中種目 | 全体の中で指導が状ずな生徒が代表して行う。その際1・2学期に出た注意事項に留意し他案を作成する。 | 教員役としての指示や信仰が指導案通りにスムーズに行えているか。 安全確保が出来ているか | 4 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

都立大山高等学校 令和5年度 教科芸術科目音楽基礎 年間授業計画

教科：芸術 科目：音楽基礎 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：(1～5組：福島優子)

使用教科書：()

使用教材：(リズムのほん3・4 ソルフェージュドリル2・3)

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|---|---------------------------------------|----------------------|----------|
| 4 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュドリルを使用して音楽の基礎を知る ピアノの基礎を学ぶ | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 5 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 6 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|---|---------------------------------------|----------------------|----------|
| 7月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 8月 | | | | |
| 9月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|---|---------------------------------------|----------------------|----------|
| 10 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 11 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 12 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|---|---------------------------------------|----------------------|------------------|
| 1 月 | 音符名称・長さ リズム拍数 視唱 聴音 個人ピアノレッスン | ソルフェージュの内容を理解して耳を鍛える ピアノの練習を集中して行う | ピアノ進度 授業態度 提出部 | |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科芸術科目ビジュアルデザイン 年間授業計画

教科：芸術 科目：ビジュアルデザイン 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～6組

教科担当者：(1組：厚木) (2組：厚木) (3組：厚木) (4組：厚木) (5組：厚木)

使用教科書：()

使用教材：()

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------|---|----------------------|----------|
| 4 月 | 文化祭ポスター制作 | ビジュアルデザインの基本的な性質を知る 今年度の文化祭ポスターの制作をアクリル絵の具を用いて制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 5 月 | 文化祭ポスター制作 | ビジュアルデザインの基本的な性質を知る 今年度の文化祭ポスターの制作をアクリル絵の具を用いて制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 6 月 | 文化祭ポスター制作 | ビジュアルデザインの基本的な性質を知る 今年度の文化祭ポスターの制作をアクリル絵の具を用いて制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|------------------------|--|----------------------|------------------|
| 7 月 | 文化祭ポスター制作・鑑賞 | ビジュアルデザインの基本的な性質を知る 今年度の文化祭ポスターの制作をアクリル絵の具を用いて制作を行う 完成した作品の鑑賞を行う | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 8 月 | | | | |
| 9 月 | タイポグラフィーにてオリジナルフォント制作！ | タイポグラフィーの性質を理解し、自身のオリジナルフォントの制作を行う | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|------|---------------------------------------|----------------------|----------|
| 10 月 | | タイポグラフィーの性質を理解し、自身のオリジナルフォントの制作を行う | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 11 月 | 卒業制作 | これまでの作品制作の集大成として2か月かけて自分の作りたい作品の制作を行う | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 12 月 | 卒業制作 | | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|------|-------------------|----------------------|----------|
| 1 月 | 鑑賞会 | 1年間で制作した作品の鑑賞明を行う | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科 芸術 科目ステンドグラス 年間授業計画

教科：芸術 科目：ステンドグラス 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：(1～5組：松木茂)

使用教科書：()

使用教材：(板ガラス、色ガラス、半田、ガラスカッター、半田ゴテ、フラックス、カップテープ、筆、半田ゴテ台、他)

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|----------------------|---|--|----------|
| 4月 | オリエンテーション | | | 1 |
| | ステンドグラスの知識 | ステンドグラスについての知識を学ぶと共に、ステンドグラスの製作過程を理解する | ステンドグラスについての理解度 | 1 |
| | カット練習 | 型紙を作り、それをもとにガラスをカットする練習 ガラスカッター等の使い方の習熟 | ガラスカッターをきちんと使用できるか 型紙通りにガラスのカットができるか 断面の仕上げ バリ取り等 | 2 |
| 5月 | 直線で構成されたステンドグラスのデザイン | 自由な発想で、ステンドグラスのデザインをする 色鉛筆等を使い完成時のイメージを確認する | 自由なイメージでデザインできるか | 2 |
| | 型紙作り | イメージスケッチをもとに型紙作りをする | 色や形が考えられ工夫されているか きちんと計画通り型紙が作れるか | 2 |
| 6月 | ガラスのカット | 型紙通りにきちんとガラスをカットする | 型紙通りにきちんとガラスをカットできるか プライヤーで修正できるか バリをとっているか | 6 |
| | 銅テープ貼り | きちんと銅テープを貼る | 半田が有効なようにテープが貼られているか コテなどでしっかり圧着してあるか | 2 |
| 7月 | 半田付け | デザイン通りガラスを並べ、半田づけしていく | フラックスをきちんと使えているか 半田づけが綺麗にできているか 半田の厚みの偏りはどうか | 4 |
| 8月 | | | | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|-----------------|---|---|----------|
| 9月 | 曲線を交えたステンドグラス作り | 曲線カットの練習 曲線の入ったデザインを考える | 型紙通りにガラスのカットができるか 断面の仕上げ バリ取り等 | 2 |
| | | | 自由なイメージでデザインできるか 色や形が考えられ工夫されているか | 2 |
| 10月 | 型紙作り | デザイン画からの型紙作り | | 2 |
| | ガラスのカット | 型紙を作り、それをもとにガラスをカットする ガラスカッタープライヤーの使い方の習熟 | 曲線のカットが上手くできるか 型紙通りにきちんとガラスをカットできるか プライヤーで修正できるか バリをとっているか | 2 |
| 11月 | ガラスのカット | 型紙をもとにガラスをカットする ガラスカッタープライヤーの使い方の習熟 | 型紙通りにきちんとガラスをカットできるか プライヤーで修正できるか バリをとっているか | 6 |
| 12月 | ガラスのカット | 型紙をもとにガラスをカットする ガラスカッタープライヤーの使い方の習熟 | 型紙通りにきちんとガラスをカットできるか プライヤーで修正できるか バリをとっているか | 1 |
| | 銅テープ貼り | きちんと銅テープを貼る | 半田が有効なようにテープが貼られているか コテなどでしっかり圧着してあるか | 2 |
| | 半田づけ | デザイン通りガラスを並べ、半田づけしていく | フラックスをきちんと使っているか 半田づけが綺麗にできているか 半田の厚みの偏りはどう | 5 |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|----------------|--------------------------------------|--|------------|
| 1 月 | 半田づけ 講評 | デザイン通りガラスを並べ、半田づけしていく 作品を並べ講評 | フラックスをきちんと使えているか 半田づけが綺麗にできているか 半田の厚みの偏りはどうか 他の作品を見てどう思うか 自分の表現したかった事ができているか等を話し合う事ができるか | 3 1 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科芸術 科目陶芸 年間授業計画

教科：芸術 科目：陶芸 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：（1組：厚木）（2組：厚木）（3組：厚木）（4組：厚木）（5組：厚木）

使用教科書：（ ）

使用教材：（ ）

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|----------------|------------------------------------|----------------------|----------|
| 4 月 | 菊練り・荒練り | 陶芸の基本的な土練りである菊練りと荒練りの練習を行い、テストを行う。 | 授業態度 テスト | |
| 5 月 | 紐づくりの技法による作品制作 | 紐づくりの技法を用いて作品制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 6 月 | 板づくりの技法による作品制作 | 板づくりの技法を用いて作品制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|--------------|------------------|----------------------|------------------|
| 7 月 | 電動ろくろ練習 | 電動ろくろで制作する練習を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 8 月 | | | | |
| 9 月 | 電動ろくろによる作品制作 | 電動ろくろによる作品制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|------|---------------------------------|----------------------|----------|
| 10 月 | 卒業制作 | 高校生活の集大成として自身が考えたテーマを元に卒業制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 10 月 | 卒業制作 | 高校生活の集大成として自身が考えたテーマを元に卒業制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 10 月 | 卒業制作 | 高校生活の集大成として自身が考えたテーマを元に卒業制作を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配 当 時 数 |
|--------|------|-----------------------|----------------------|------------------|
| 1 月 | 鑑賞 | 1年間を通し制作していた作品の鑑賞を行う。 | 授業態度 作品 ワークシート | |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |

大山高等学校 令和5年度 教科芸術科目実用書道 年間授業計画

教科：芸術 科目：実用書道 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～5組

教科担当者：（1組：金澤）（2組：金澤）（3組：金澤）（4組：金澤）（5組：金澤）

使用教科書：（硬筆レッスン帳）

使用教材：（硬筆レッスン帳）

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|----|-----------|-----------------------------------|----------------|----------|
| 4月 | オリエンテーション | 1年間の授業の進め方を理解する。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 2 |
| | ひらがな | 用具の使い方、ひらがなの成立を理解し、字形をお整えることができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 4 |
| 5月 | 片仮名 | 片仮名の成立を理解し、字形を整えることができる | 授業への取り組み、課題の提出 | 2 |
| | 楷書 | 結構を理解し、字形を整えることができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 6 |
| 6月 | 楷書 | 楷書の部首と部分について理解し、字形を整えることができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 6 |
| | 履歴書の書き方 | 自身の履歴書を作成し、美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 2 |
| 7月 | 履歴書の書き方 | 自身の履歴書を作成し、美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 4 |
| 8月 | | | | |

| | 指導内容 | 科目〇〇の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|------------|----------------------------------|----------------------------|----------|
| 9 月 | 行書 | 行書の特徴を知る。筆法について理解し、字形を整えることができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 8 |
| 月 | 行書 | 行書の部首と部分について理解し、字形を整えることができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 4 |
| | 行書に調和する平仮名 | 行書に調和する平仮名を美しく書くことができる。 | 行書に調和する平仮名を美しく書くことができる。 | 4 |
| 11 月 | 行書に調和する片仮名 | 行書に調和する片仮名を美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 4 |
| | おさらいレッスン | 今までに学習した書法を使って美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 4 |
| 12 月 | 葉書の書き方 | 葉書の表書きについて理解し、美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 2 |
| 1 月 | 封書の書き方 | 封書の表書きについて理解し、美しく書くことができる。 | 授業への取り組み、課題の提出 | 2 |
| | 金封の書き方 | 金封の種類について理解し、美しく書くことができる。 | 葉書の表書きについて理解し、美しく書くことができる。 | 2 |
| 2 月 | | | | |
| 3 月 | | | | |